

高等学校 令和6年度（3 学年用） 教科 数学 科目 数学ⅠA演習

教 科： 数学科 科 目： 数学ⅠA演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 5 組

教科担当者：（ 野間 ）

使用教科書：（ 数研出版 「クリアー 数学Ⅰ＋A」 ）

教科 数学科 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数
学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け
るようになる。
- 【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認
識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確
に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的
論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学ⅠA演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析につ いての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解 するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈 したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に 付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的 にみたり目的に応じて適切に変形したりする 力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形 の性質や計量について論理的に考察し表現す る力、関数関係に着目し、事象を的確に表現 してその特徴を表、式、グラフを相互に関連 付けて考察する力、社会の事象などから設定 した問題について、データの散らばりや変量 間の関係などに着目し、適切な手法を選択し て分析を行い、問題を解決したり、解決の過 程や結果を批判的に考察し判断したりする力 を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとし る態度、粘り強く考え数学的論拠に基づい て判断しようとする態度、問題解決の過程 を振り返って考察を深めたり、評価・改善 したりしようとする態度や創造性の基礎を 養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	乗法公式、因数分解の公式が理解で き活用できる。 式の置き換えや一つの文字に着目す るなどして、展開・因数分解ができ る。	展開 因数分解	提出物、出席状況等により総合的に判断す る。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	自然数、整数、有理数、無理数の包 含関係など、実数の構成を理解する。 無理数の加法及び減法、乗法公式な どを利用した計算ができる。また、分 母だけが二項である無理数の分母の有 理化ができる。 集合に関する基本的な用語・記号や 集合の包含関係を理解する。ベン図や 数直線を活用して、共通部分、和集 合、補集合を求めることができる。	実数 根号を含む計算 不等式 集合と論理	提出物、出席状況等により総合的に判断す る。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
2 学 期	対称軸（直線 $x=p$ ）や頂点（ p, q ） に着目して2次関数のグラフの特徴を 捉えることができ、2次関数 $y=$ ax^2+bx+c を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形 （平方完成）し、2次関数のグラフをか くことができる。	2次関数とそのグラフ	提出物、出席状況等により総合的に判断す る。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	2次関数のグラフから頂点又は軸を 境として、関数の値の増減が変化す ることを理解し、2次関数の最大や最小を 考察できる。 2次関数のグラフと x 軸との共有点 の x 座標は2次方程式の解であることを 理解し、 x 軸との共有点の x 座標を 求めることができる。 2次不等式の解の意味を理解し、2 次関数のグラフを活用して解くことが できる。	2次関数の最大、最小 2次方程式、2次不等式	提出物、出席状況等により総合的に判断す る。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	最小値、四分位数、最大値、四分位 範囲、四分位 偏差、分散、標準偏差等の用語につ いて理解する。 散布図や相関係数の意味を理解す る。	四分位数 標準偏差 相関係数	提出物、出席状況等により総合的に判断す る。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
							合計 67